



理念 患者さま一人ひとりを大切にする医療を目指します。



副院長のごあいさつ

副院長 三方 崇嗣

広報紙を手に取って下さった皆様、有り難う御座います。大分肌寒くなってきた季節の変わりを感じるようになってきましたが、如何お過ごしでしょうか。

前回の挨拶から早くも一年がたちました。その間まさに禍福はあざなえる縄のごとしで様々なことが当院にも日本にもありました

筋ジストロフィーの遺伝子治療薬や iPS 細胞に

よる治療の保険収載などこれまで治療法の乏しかった疾患の根本治療につながる道が開けました。一方で千葉豪雨をはじめとした各地での豪雨による水害や熊本地震もありました。季節の早いインフルエンザの流行もあります。

当院において良かった事は、末石元院長が春に叙勲の栄に浴されました。その記念に今回手記を寄せて頂いています。そちらもお楽しみ頂ければと思います。良くないこととしては先日の千葉豪雨で病棟や宿舎の浸水などの被害があったことになるかと思います。その際も職員の皆さんはチームワークで乗り切ってくれました。これも当院の長所かと思います。

様々なこともありましたが当院職員一同頑張っておりますので応援して頂ければと思います。

これからは当院も皆様にとっても穏やかな日々が続くことを願っています。

Index

令和8年春の叙勲受章	2
医師紹介	3
災害時も「食べる」を大切に ～家庭でできる食の備え～	4
地域医療連携室より	5
下志津フェスティバル	6
ボランティアコラム「つながり」	7



令和8年 春の叙勲受章



名誉院長 末石 眞

令和8年春の叙勲にて瑞寶中綬章を拝受いたしました。

私は昭和48年千葉大学医学部卒業し、同大学旧第2内科に入局、アレルギー膠原病の研究グループに属しました。旭中央病院に一年間、川鉄病院に一年間の出張をはさんで、同科でラット好酸球よりのアシルサルファターゼ遊離機序について、さらに宮崎肺吸虫症の胸水中の好酸球遊走因子について研究を行いました。その後に全身性エリテマトーデス患者に腎生検を行い、血清中の補体C3の長期低下と腎組織の活動性所見が相関するがC4低下のみは相関少ないと報告しました。この間、杉山隆夫先生にはともに腎生検を行なっていただきました。

昭和62年に、当院に赴任いたしました。赴任後にリウマチ、膠原病患者の診療を開始し、それまで当院にはなかったリウマチ科をはじめました。また、電子カルテ導入にもあたり、若干利用しやすいようにもすることができました。

診療では、シェーグレン症候群、関節リウマチなど膠原病リウマチ性疾患でどうしても継続する酷い全身痛、強い倦怠感のために日常生活が困難になる患者の存在を知り、線維筋痛症であると診断に至りました。同疾患は肉体的あるいは精神的ストレスによる中枢神経の過敏であろうとされており、半数以上の患者は台所仕事ができなくなり、湯舟に入っても全身痛、倦怠感悪化があるために入らなかつたり、シャワーで済ます方がおり、大変驚きました。また完璧症が相関するようでした。薬剤投与などである程度の症状緩和がみられるものの症状消失例は大変少なく、発症誘因と思われる膠原病症状完全消失例、精神的ストレス消失例などわずかな症例のみでした。

近年、関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛などでは関節エコー所見がその診断そのものにも活動性の評価にも重要となっております。定年近くになり下志津病院リウマチ科の担当先生に関節エコーを教えていただきました。平成26年6月に定年退職となり、その後は下志津病院と自宅近くの公立長生病院で非常勤医師としてリウマチ科の診療をおこなっており、関節エコーは診療に大変役立っております。また、旭中央病院でも検診医として勤務しています。

以上、医師としての長い勤務生活でしたが、その時々にお会いした患者さま、ご家族とのお付き合いも私の人生経験であり、これらの方々にありがとうございましたと述べたいと存じます。また、リウマチ科の先生方はもちろん、各科の先生方、事務部、看護部、薬剤科、放射線科、検査科、連携室、医師業務支援室、パラメディカルなど多くの方々に世話いただきましたおかげで叙勲を受けることとなりました。叙勲では皇居にて天皇陛下のお姿、お声に接することができ、帰りにはお土産のお菓子、記念絵葉書をいただきました。

このような経験ができたのも皆様のご支援のおかげです。ここに深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

医師のご紹介

整形外科

林 浩一



令和 8 年 4 月より整形外科に勤務させていただいております、林浩一です。

当院整形外科鈴木先生とは千葉大学整形外科医局の同期です。平成 12 年 (2000 年) 入局なので、四半世紀過ぎたことになります。専門は、脊椎外科です。

千葉大学整形外科入局後、複数の関連病院で研修する中で、頸椎・脊髄を専門とすることを志しました。

大学院卒業後は、成田赤十字病院に 8 年、千葉医療センターに 8 年勤務し、脊椎疾患患者さん・外傷患者さんの診療・治療にあたってきました。

下志津病院の特徴として、他の病院にはあまりいらっしゃらない疾患(筋ジストロフィー等)の患者さん、膠原病の患者さんが多くいらっしゃり、私も日々勉強させていただいております。

これまでの診療経験を活かし、また新たに知識を増やし、病院スタッフと協力しながら、皆様の健康維持のお役にたてるように頑張っていきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

小児科

栗原 恵理佳

4 月より入職いたしました小児科の栗原恵理佳と申します。平成 24 年に群馬大学医学部を卒業後、千葉労災病院にて初期研修を行い、千葉大学小児科に入局しました。千葉大学病院のほか、県内いくつかの関連病院にて、小児科、新生児科、感染症科の診療に携わってきました。四街道市に勤務するのは初めてであり、また初の電車通勤を始めて、新たな気持ちで勤務させていただいております。以前はスキーや登山が好きでしたが全然行けておらず、最近はこどもの影響でポケモンを勉強中です。

当院小児科では一般小児科のほか、アレルギー診療、重症心身障害の方の管理、支援学校併設を活かした長期入院など診療内容は様々であり、地域医療の大切さを実感しながら働いております。みなさまのお力に少しでもなれるよう、頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。





災害時も「食べる」を大切に ～家庭でできる食の備え～

栄養管理室長 白戸 ゆり

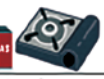
災害はいつ起こるか分かりません。地震や台風などの災害時には電気・ガス・水道が使えなくなることがあります。また、非常時には食料品が手に入りにくくなることもあります。そんな「もしも」の時に大切なのが、家庭でできる食料備蓄です。非常時の食は空腹を満たすだけでなく、健康を維持するためにも栄養を考えて備えることが大切です。

● 何をどのくらい備蓄する？

最低でも3日分、できれば1週間分くらいの食料を家庭で備蓄しておけると良いです。必需品は水・カセットコンロなどの熱源・食品です。

● どんな食品が必要？

非常時にご飯やパンなどの主食に偏りがちです。しかし、健康を維持するためには、主食だけでなく魚・肉・豆類などの主菜も大切です。手軽に摂れて、たんぱく質が補える魚や肉の缶詰やレトルト食品を備えましょう。また非常時には野菜不足からビタミンや食物繊維がとれず、口内炎や便秘に悩んだとの声もあります。じゃがいもやたまねぎなど日持ちする野菜を買い置きする、野菜の缶詰やジュースなどを日ごろから備えておくとう便利です。また、食べる際は主食・主菜・副菜をそろえて食べるよう意識すると、栄養バランスが良くなります。

大人 2名分 備蓄量	水	カセットコンロ・ボンベ	食事		
			主食	主菜	副菜
1週間分	2L×6本×4箱 (1人1日3L程度) *食品や食器を洗う水は別途必要 	カセットコンロ +ボンベ12本 (1人1日1本消費) 	米2kg×2袋 バックご飯×6個 乾麺 (赤麺300g×2袋) (パスタ600g×2袋) カップ麺×6個 	魚の缶詰(ツナ・サバ・イワシ・サンマなど)や肉の缶詰(コンビーフ・焼き鳥など)や豆の缶詰など18缶  カレーや牛丼などのレトルト食品18個  パスタなどのレトルト食品6個 	じゃがいもたまねぎなど日持ちする野菜  トマト缶、コーン缶など野菜の缶詰 
3日分 (1週間分の半分程度で算出)	2L×6本×2箱 (1人1日3L程度) *食品や食器を洗う水は別途必要	カセットコンロ +ボンベ6本 (1人1日1本消費)	米2kg×1袋 バックご飯×3個 乾麺 (赤麺300g×1袋) (パスタ600g×1袋) カップ麺×3個 	魚の缶詰(ツナ・サバ・イワシ・サンマなど)や肉の缶詰(コンビーフ・焼き鳥など)や豆の缶詰など9缶  カレーや牛丼などのレトルト食品9個  パスタなどのレトルト食品3個 	野菜ジュース、トマトジュース  乾燥ワカメ  インスタント味噌汁、即席スープなど 

● ローリングストックを始めてみましょう。

食料備蓄は日常的に食べているものを消費しながらストックする「ローリングストック」がおすすめです。普段食べている米や缶詰、野菜ジュースなどを少し多めに買い置きし、賞味期限の古いものから消費し、減ったらその分買い足します。「蓄える、食べる、補充」の流れでローリングストックを日常生活に取り入れてみましょう。

● 今日からできる3つのこと。

- ・ 家にある食品の賞味期限を確認しましょう。
- ・ 足りない食品を買い足しましょう。
- ・ 使ったら買い足す「ローリングストック」を始めてみましょう。

出典「政府広報オンライン 今日からできる食料備蓄。ローリングストックの始め方」をもとに下志津病院作成

地域医療連携室より

～「みんな」のかかりつけ医を目指して～

四街道みんなのクリニック 院長 古来 貴寛

当院は、2005年の開院以来、約20年にわたり地域医療を担ってきた「こばやしクリニック」を私が2025年12月に承継し、2026年7月に「四街道みんなのクリニック」へ名称を変更して、新たなスタートを切りました。

私は札幌医科大学を卒業後、市立函館病院での初期研修を経て、東京女子医科大学八千代医療センターで小児外科、札幌医科大学附属病院で消化器外科を中心に診療してきました。現在は地域のかかりつけ医として、内科・消化器内科・小児科・皮膚科と幅広い診療を行っています。

「みんな」というワードにこだわっています。「赤ちゃんからご高齢の方に至るまで年齢を問わず、地域のみんなに貢献したい」、そして「当法人で勤務していただいているスタッフみんなの幸せを追求したい」という思いを込めています。日常診療では、発熱や腹痛、咳などの急性疾患から、高血圧・糖尿病・脂質異常症などの生活習慣病、小児疾患、皮膚疾患、予防接種、健康診断まで幅広く対応しています。

一方、クリニックで対応できないことも多くあります。クリニックの大切な役割の一つは、患者さんに身近な場所で日常的な健康管理を行いながら、精密検査や入院、専門的な治療が必要となった際には、その必要性を適切に判断し、速やかに病院へつなぐことだと考えています。



大学病院勤務時代には、患者さんをご紹介いただく側として地域の先生方に支えていただきました。開業医となった現在は、患者さんを下志津病院のみんなへお願いする立場となり、診療所と病院との連携の重要性を改めて実感しています。急性期・専門医療を担ってくださる病院の先生方、地域医療連携室の皆様には、心より感謝申し上げます。

また、当院では診察だけではなく、地域のみんなの生活そのものを支えることのできるクリニックを目指しています。その取り組みの一つとして、現在、四街道市の病児・病後児保育事業の開設準備を進めています。子どもが病気になったときにも、保護者が安心して仕事や生活を続けられる環境を、医療の立場から支えていきたいと考えています。

これからも、「こばやしクリニック」が築いてきた地域とのつながりを大切にしながら、新しいことにも積極的に取り組み、「何かあったら、みんなのクリニックへ」と地域の皆様に思ってもらえる存在を目指してまいります。



ボランティアコラム「つながり」

ボランティア委員会 事務局

ロビーコンサートについて

6月の台風の影響で延期になっていたロビーコンサートを9月2日（水曜日）に実施し、ピアノ・ベース・ドラムで構成された『下志津ジャズバンド』による演奏をたくさんの患者さんが楽しみました。普段の生活の中ではなかなか触れる機会がない音楽かと思いましたが、耳にしたことのある曲も多く、親しみやすく感じました。また、患者さんからのリクエストにもたくさん応じていただき、知っている曲がジャズらしいアレンジを加えて演奏されると会場内は大いに盛り上がりしました。いつもと違う雰囲気音楽を味わえた、心に残るひとときとなりました。



活動再開したボランティア活動について

● ドライヤーボランティア

今現在、週2回のペースでボランティアの方に来ていただいています。

ドライヤーでは、温風だけでなく仕上げに冷風を当てるなど、患者さんが気持ちよく過ごせるよう対応していただいています。「お風呂上がりに気持ちよく過ごせるようになった」といった患者さんからの声もあり、ボランティアの方による支援が、入浴後の心地よい時間に繋がっています。



● 作業補助ボランティア

作業補助は、ステンシル作業や製作活動、カラオケ機器操作等を再開しています。

ステンシル作業や製作活動では、ボランティアの方と会話しながら、一緒に作業することで、作業だけでなく交流も楽しみながら取り組む様子がみられています。また、カラオケ補助では、好きな曲を選んで歌ったり、曲に合わせて口ずさんだり、一緒に盛り上がる姿がみられています。

ボランティアの方の支援により、患者さんがそれぞれの楽しみ方で余暇の時間を過ごすことに繋がっています。

受付時間
8:30～11:00

外来診療担当表

独立行政法人 国立病院機構 下志津病院
令和8年10月1日～

区 分	月	火	水	木	金
一般内科(毎日) ○初診担当	古 川 ○富 澤	○古 川 篠 崎	古 川 ○黒 田	○杉 浦	○田 中
リウマチ科(毎日) ●初診担当	●杉 本 宮 林(PM) 乗 本(PM)	●杉 山 古 川 末 石 横 山(AM)	●黒 田 眞 山	杉 山 杉 本 黒 田	●杉 山 杉 本 ●田 中 亀 田
消化器内科(月・水)	富 澤		富 澤		
アレルギー科(成人)(喘息)					岩 本(AM)
呼 吸 器 科			佐 野 (第1・3・5 13:00～15:00)		
禁 煙 外 来 ※			鈴木(修) (15:00～16:00)		
脳 神 経 外 科	丹 野	石 毛/丹 野	深 谷	丹 野	深 谷
神 経 内 科		本 吉/佐 藤/三 方	本 吉	田 中	本 吉/角 谷/三 方
小児神経科※			石 原	大 村	
小 児 科 一般小児科(毎日) 喘息・アレルギー (予約制)※ 代謝(火のみ) 腎臓(水(PM)) ◎神経(月・木・金)※ 肥満(予約制)※ 成人食物アレルギー (木(PM))	一般 喘息・アレルギー・神経 (予約のみ) ◎甲斐(神経) 鈴木(修)(AM) 交代制(女子医大)	一般 喘息・アレルギー・代謝 (予約のみ) 山本(第1・3のみ) 須 藤 佐 藤(一)	一般 喘息・アレルギー(予約のみ) 腎臓(PM) 鈴木(由) 鈴木(修) 栗原(AM)	一般 喘息・アレルギー(予約のみ) 神経 ◎砂 川 西 井 佐藤(一) 交代制(女子医大)	一般 喘息・アレルギー(予約のみ) 神経 ◎関 谷(神経) ◎石 原(神経) 鈴木(修) 天 野
外 科	白 井		白 井	長谷川(予約制)	白 井
整 形 外 科	鈴木(宗) 河 野	鈴木(宗)(第2・4のみ) 林(浩)(第1・3・5) 江口(PM)(第3・5のみ)	鈴木(宗) 林(浩)(AM)	鈴木(宗) 柿 沼	林(浩)
リハビリテーション科	角 谷(指定する日)				

以下の疾患の診察は、完全予約制となります。初診の方は、地域連携室で予約をお願いします。(予約受付時間 14時～16時)

- ※ 小児神経科
- ※ 成人・小児科の食物アレルギー
- ※ 気管支喘息・アトピー性皮膚炎
- ※ 肥満、低身長、内分泌疾患、乳児血管腫
- ※ 市の健診の精密検査
- ※ 禁煙外来
- ※ 整形外科の診察をご希望の方、これまで診察を受けていた方もすべて予約制となります。
初めて受診される方は紹介状が必要になります。一度お電話にてお問い合わせください。

検査担当医師表

区 分	月	火	水	木	金
内視鏡 (予約制)	胃 長谷川	富 澤	長谷川		篠 崎
	大腸		長谷川・白井		長谷川・白井
超音波 (予約制)	腹部 富 澤(AM)		篠 崎(AM)	富 澤(AM)	
	関節 山形・乗本(PM)				山形(PM)
	心臓(成人) 堅 田(AM)	筋ジストロフィー(第3・不定期)			
	心臓(小児)			濱 田(PM)(第2のみ)	

四 街 道 市 健診は第4木曜日14:00から行います。
乳 児 健 診 予防接種・乳児健診予約のお問い合わせは1番窓口と電話にて受付しています。(予約受付 平日13:00～16:00 043-422-3513(直通))

- ・ 精神科・皮膚科・歯科・眼科・耳鼻科は、主として入院患者を診察しています。



独立行政法人 国立病院機構 下志津病院

〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡934-5
電話：043-422-2511 FAX：043-421-3007
ホームページ <https://shimoshizu.hosp.go.jp>



下志津病院 看護部の
Instagramはこちら



ホームページは
こちらへ

第37号

令和8年10月発行

発行責任者 鬼頭 浩之
編集委員長 三方 崇嗣